

吉野川現地案内ツアー



「眉の如雲居に見ゆる阿波の山」と万葉集にも詠まれた眉山は、どの方向から見ても眉の形に見える穏やかな稜線が特徴で、標高290mの山頂からはパノラマビューが楽しめます。この日はすばらしい秋晴れで、吉野川の壮大な流れや阿讃の山並み、大鳴門橋、そして淡路島まで見渡す眺望に、あちこちで歓声が上がりました。山頂からロープウエーで約6分の空中散歩を楽しみながら山麓へ。

さあ、次は認定NPO法人 新町川を守る会の案内で「ひょうたん島クルーズ」

日本三大河川シンポジウムに連動して、11月10日は吉野川下流の現地案内ツアーを実施。15人が参加し、自然が豊かに残る徳島市中心部を巡りました。



↑ 広大な吉野川の河口を一望



爽やかな秋晴れのもと、徳島市の王道
ビュースポットを巡りました



絶好のクルーズ日和！皆さんの笑顔も輝いています

へ出発です！ いくつもの橋をくぐり、藩政時代の松や人柱伝説の残る福島橋などを見学しながら進みます。藍場浜公園、徳島中央公園、助任川河岸緑地……河岸を美しく彩る公園の多さを兄弟達にほめられ、ちよつと誇らしい気分になりました。SUP（スタンドアップパドルボード）やカヤック、釣りや犬の散歩など、思い思いに水辺を楽しむ人々の姿に、川が生活の一部になっているんだなあと思惑。兄弟達とともに水都・徳島の魅力を満喫した秋の日でした。

↓「川」ゆく人と
挨拶をかわしながら進みました



三大暴れ川の仲間を訪ねました

水問題について利根川で語り合いました

11月は忙し！ 11月29日・30日、中央工学校（東京都）で開催された「利根川の水が首都圏を支えるPARTII」に吉野川チーム18人が参加しました。前回の東京オリンピックの直前、首都圏は「東京サバク」と言われたほどの大洪水に見舞われ、これを契機に利根川の水が東京都に供給される利水事業が本格化したとか。東京2020オリ・パラを控え、水問題や利水について流域を越えて考えようと、29日にはシンポジウムが開催され、吉野川チームも吉野川水系の水利用について発表しました。30日は東京都水道歴史館を訪問。江戸上水から現在の水道に至るまで、東京水道400年の歴史を興味深く見学しました。



江戸時代の木製の水道管。なんと阿波徳島藩上屋敷跡より出土したもの



災害を乗り越える筑後川東峰村へ

「第33回筑後川フェスティバル」は、11月2日・3日、福岡県・東峰村で開催されました。東峰村は筑後川上流に位置し、平成29年の九州北部豪雨で大きな被害を受けたちいさな村。福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校生による「復興応援歌」のオープニングに続き、「災害を乗り越え、水・森・人の共生を考える」をテーマに、コンセンサス会議やシンポジウムが開かれました。夜なべ談義では吉野川チーム21名の音頭により、会場全体が阿波踊りの渦に包まれました。



福永会長を先頭に阿波踊りを披露



被災当時の状況を教えてもらいました

翌3日は筑後川チームの案内で、被災したJR筑前岩屋駅周辺を訪ねました。土砂の流入でホームと線路が断ち切られた痕跡は今も残り、線路は雑草で覆われたまま……現在も駅は休止中だとか。2年以上たつのに進まない復興に、もどかしい思いです。